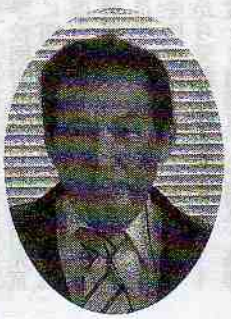
波紋

特定非営利活動法人
教育活動総合サポートセンターだより
「波　紋」　第９号
発行人　佐々木武志
題字デザイン・山口正勝

発行所　教育活動総合サポートセンター
〒213-0033　川崎市高津区下作延5-11-8
TEL：044-877-0553　FAX：044-877-0980
E-mail：support0731@luck.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www16.ocn.ne.jp/~snmi/
印　刷　西桜印刷株式会社

創立10周年を前に



NPO法人 教育活動総合サポートセンター
理事長　佐々木　武　志

はやいもので「子たちに力を」を合い言葉に、サポートセンターを設立して９年めを迎えました。今年度は役員改正の年に当たり２月に行われました臨時総会におきまして理事長に選出されました。

あの大震災から1年、多くの方々が、家族や地域の絆を大切にして、ボランティア活動等、復興に向け取り組んでいます。

来年は、サポートセンターも創立10周年を迎えます。この9年間、家庭や地域社会・学校に居場所が求められず不登校・いじめ・非行などの不適応を起こした、子どもたちへ援助を続け、多くの子どもが学校復帰・社会復帰を果たすことができました。

今年度は、新たに「不登校および問題行動等と発達上の課題への対応」という研究主題で、文部科学省より研究の委託を受けました。

顧問であり税理士の中山先生のご努力で福祉団体として認められ、消費税非課税団体となりました。

また現在、「認定特定非営利活動法人」取得にむけ手続きを進めています。一定の基準（パブリック・サポート・テスト）の条件を満たしていますので認定取得はできるものと思っています。

このように、年々充実・発展してきた、サポートセンターの事業や活動を考える、その責任の重大さに身が引き締まる思いがしております。会員・賛助会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

節目の刷新

創設以来、9年めを迎えました。活動会員の皆様、支援・協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。

役員改選の年度を迎え、佐々木武志先生を理事長に迎えることができました。先生は創設以来の同志であり指導者でもあります。また、新たに理事として若い先生方を迎えることもできたこと嬉しい限りです。

不登校に陥った子どもを学校復帰させる活動をすればするほど、新たな課題に遭遇します。教育と福祉を協働させる必要に迫られています。

節目の年度は人事の刷新だけでなく、活動内容の刷新でもあります。

複雑化した活動に対応する事務局体制、福祉活動による税制の在り方、指定管理制度への対応、文部科学省生徒指導室からの研究委嘱等、一層の工夫と努力が求められます。本年度もさらなる充実を図って行きたいと考えています。

（前理事長　宮田　進）

24年度活動方針・事業計画

「子たちに力を」の法人設立の理念に基づき、各事業が効果的、具体的に活動できるよう組織機能の一層の充実を図る。

1　活動方針

①基礎基本を重視した学習支援の中で学力の充実を図り、また、様々な体験活動を通して、学校復帰や社会参加促進を支援する。

②家庭・学校・地域および関係機関等との連携を深め、相談活動を中心とした社会福祉活動に努めるとともに、各学校の教育活動の充実発展を支援する。

③一人ひとりの児童が、心豊かにそして生きる力を身につけられるよう支援する。

④組織力の強化と諸活動の充実、幅広い活動会員の受け入れと、賛助会員の拡大を図る。

2　事業計画

学校へ行きたくても行けない子どもたちのために、学習・相談の支援活動を9年前から始めて来た。これらの実践は、平成17年度より6年間にわたる文部科学省の研究を推進することにより、実績を積み上げてきている。この実践研究を基礎として本年度より外国籍児童生徒の学力向上事業が幸区との連携で始まる。21年度途中より「川崎区教育支援」（こどもサポート旭町）事業が始まった。すでに活動を開始している「こどもサポート旭町」「こどもサポート南野川」「中原区教育支援」等と一体的な活動を進め不登校児童生徒のみならず、問題行動児童生徒を含めた支援活動に取り組む。

(1)学習指導部

①学習指導

不登校児童生徒の学校復帰をはかるため、児童生徒の特性を生かした指導の充実を図る。

②日本語指導

海外からの帰国児童、外国人へ日本語指導、外国語への支援を図る。

③サイエンスキッズ

実験・実習を通して理科学習の楽しさを味わわせる。

④キッズセミナー

生涯学習プラザを会場に「得意な教科はさらに得意に」「疑問、矛盾を解決する自由研究」等多様な講座を開設し個性伸長を図る。

(2)相談・適応指導部

①相談活動

不登校児童生徒、特別支援児童生徒、不適応、問題行動等のある児童生徒の相談活動を推進する。

②適応指導

・ふれあい活動宿泊体験

不登校児童生徒が心を開き軽度特別支援児童生徒が自ら進んで活動できるよう、子どもに活力をつけたい。

・体験活動

鎌倉遠足、修学旅行を再現したり各種体験をさせたい。

③特別支援

支援事業を充実させていく。特別支援教室の担任経験者、指導主事経験者、行政で対応した経験者の充足を図る。

④学校との連携

支援事業を充実させていく。特別支援教室の担任経験者、指導主事経験者、行政で対応した経験者の充足を図る。

(3)事業部

①青少年の家・管理運営事業

自主事業の充実・発展に努め、地

域・家庭・学校との連携を図る。

②大山街道・ふるさと館・管理運営事業
館の管理運営と地域の歴史、民俗資料の展示活動、文化活動、講演活動に職員のノウハウを活用し、市民の幅広い参加を図る。

③こどもサポート南野川・管理指導事業
不登校児童、軽度特別支援児童生徒、反社会的傾向児童生徒の学習支援を図る。

④こどもサポート旭町・管理指導事業
不登校児童、特別支援児童生徒、不適応、問題行動等のある児童生徒に対する学習支援及び集団遊戯を通じた学校、社会復帰に向けた支援。

⑤輝け☆明日の先生の会事業
教員を目指す臨任、非常勤、大学生等が対象。教育に関する様々な課題を具体例を通して学ぶ。年間15日（25講話）、ゼミナール7日を予定。

⑥川崎の教師塾
今日的な教育課題を幅広い立場から探り、これからの学校現場のあり方を考える。

⑦サポーター配置事業
特別支援、学習支援に年間を通して、学生等を配置する。

⑧学校図書館有効活用
休日、夏期休暇、読書週間等の期間、学校図書館を一般市民や児童生徒に開放し、その施設管理や読書指導を行う。

⑨文化講演会
教職員、PTA、市民向けに文化向上を図る講演会を企画開催する。

⑩各区から受託した事業
昨年度より川崎区、中原区、高津区、宮前区から、子育てに関する事業を受託している。各区民の期待に添うよう、また、各種の問題や課題の未然解決が図れるよう、それぞれの区と綿密な連絡を取りながら事業の推進にあたる。

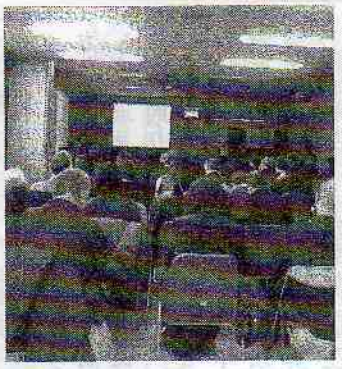
平成23年度　自主研究事業
主題「不登校および問題行動等と発達上の課題への対応」

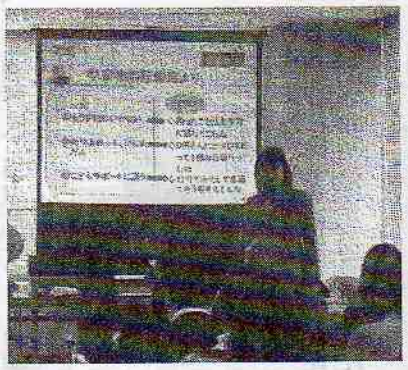
自主研究報告会

研究の中心は、サポートセンターに通所している子どもたちのニーズを「見取る・把握する」こと、そのためのチェックシートを作成したことである。チェックの柱は2本あり、「主訴および困り感」と「発達上の課題」である。

成果として、指導者のみとりの客観性と、適切な指導プログラム選択への有効性が得られたことがあげられる。

課題は、指導プログラムのエビデンス（科学的根拠）となり得るチェックシートの再構成である。そのためには、より具体的に福祉の分野を含む個々の保護者や子どもの主訴や困りをとらえる下位のチェック内容も必要になる。





川崎の教師塾

昨年度から講座名を「新しい学校づくり☆川崎塾」から「川崎の教師塾」と改名しました。現場の先生方の様々なご要望にお応えし、川崎の先生方のお役に立ちたいと願ったからです。今年度も皆様のお声をもとに講座を立ち上げます。「志」のある先生方の受講をお待ちしています。

「輝け明日の先生の会」

主催総合教育センター、主管NPOサポートセンターの「輝け明日の先生の会」も教師の塾として定着してきました。川崎市の教員を目指す臨任・非常勤・社会人・学生等の85人が受講し、活気ある講座・ゼミが展開されました。4月から出身者が小中学校の子どもの前に立ちます。講座・ゼミを進めるにあたりNPO会員の皆様にはご協力をいただき、長年培ってきた教師力をフルに発揮していただき感謝いたします。今年も活気ある会にします。

サポーター配置事業

学校の学習指導等の支援を目的として開設されたサポーター配置事業。昨年度は45人以上の配置、47大学にまでおよんだ。学校と教育委員会との連携のもとですでに4月より配置が進められている。「子たちに力を」のもと今年も奮戦が続く。

（築部、對馬、藤田、長澤、大原、渡邊）

小学校・特別支援部会

登校に心が揺れうごくD男

学校復帰と不登校を繰り返し、登校に親子ともに心が揺れうごくタイプの子には、どのような特化プログラムが有効かを論議した。

仲間や指導者との人間関係の形成や楽しく遊ぶルールの理解など、社会性やコミュニケーション力の向上、得意教科の個別指導による達成感、学習への好奇心など、自信をもたせることが大切である。また、級友をつなぐ担任や関係機関との連携も重要であり、円滑な進学をアプローチする。

現役の参会者からは、きめ細かな特化プログラムの様子や発達障害についての相談機関への勧め方、D男以外のタイプについて質問が出され、関心の高さが示された。

中学校・高等学校・特別支援部会

分科会には70余人の参会者があり、「学習の困り感を少しずつ克服しているA男」の事例について提案・対応を行った。

研究討議では、チェックシート、特化指導プログラムへの理解や関心を持つ声が多く寄せられ、熱心な意見交換が交された。

A男のように、A男の主訴の背景には、対人関係・学習遅滞・社会性スキル未発達等、複合的な問題を抱えた子は少なくない。

この点、参会者から、当方への感謝とエールとともに、関係諸機関や学校との連携を望む声が多く寄せられた。

川崎市青少年の家

○よちよち歩きの子あつまれ

親と子、家族間のふれあいの機会であり幼児にとって何が大切か考える場でもある。

○ほのぼのスクール4泊5日

協調と自主性の大切さを学ぶ。家族への思いを深める。

○エコチャレンジクラブ活動

人類、地球を大切にしていく芽が育つことを願っている。

学ぶ喜び 楽しさ いっぱいの子たち

習字で八段になりたい

私は、2年生のころから習字を始めました。始めたきっかけは、友達が習っているのでやってみたいと思ったからです。それから週に1回習いにいって先生からたくさんアドバイスをもらって書いていくうちにどんどん上手に書けるようになりました。今では毛筆が準六段になりました。これからは先生のように字がていねいに書けるようになりたいと八段を目指しています。でも八段になるには、最後に試験を受けなければいけません。そしてそれに合格しないといけないのでがんばりたいと思います。

小学生のうちは部活がないので習字が休まずできるけど中学生になると部活が始まるのでいそがしくなるそうです。それでも時間をうまくつくって習字を続けたいと思います。

（小5・H・I）

勉強は大切!!

ぼくは、サポートセンターを2年生のころからやっていて、最初の方は、ちがう人とぜんぜん話ができなくて、コミュニケーションが取れなかったけど、だんだんコミュニケーションが取れてきました。最初の方は、勉強の方も、はかどらなくて、ぜんぜん頭にはいらなかったけれど、だんだん頭にはいるようになりました。

テストの点も、サポートセンターに行き始めてからどんどんあがっていきました。

今では、百点未満だと、すごくくやしくなります。

ぼくは、本当に、サポートセンターに来てよかったなと思っています。

これからも、テストで百点が取れるように、サポートセンターで勉強していきたいです。勉強は、大切だ!!を学びました。

（小5・R・T）

6年生でがんばりたいこと

私が小学校生活最後の6年生になって、がんばりたいことは二つあります。

まず勉強です。家でもサポートセンターでも学校の予習や復習をしていますが、計算するときに時間がかかるからです。スローペースな私は、6年生では、早く正確に計算できるようにがんばりたいと思います。

2つめはクラブ活動です。6年になっても、5年の時と同じバドミントンクラブを選びました。6年生になって、もっと上手になりたいと思うからです。ラリーが続くようになると、とてもうれしいです。

私はスポーツが好きです。ボール運動が好きで、走りまわってシュートした時や勝った時はとてもうれしくなります。これからもスポーツを続けていきたいと思います。

（小5・M・K）

出会いに感謝、そして力に

娘が不登校になったのは小学校6年の時。日々体調が悪化し、とても登校できる状態ではありませんでした。原因がわからず、日の前が真っ暗になりました。

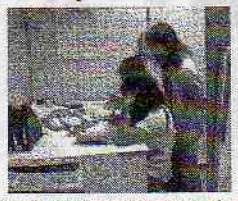
半年ほど経った頃、小学校からのお便りがきっかけでサポートセンターを知り、週に1回通うようになりました。

当初は、無口で表情も暗かったのですが、先生方の声かけやご指導のお陰で徐々にセンターでのことを話してくれるように。表情も次第に明るくなり、私は娘の居場所ができたことに一安心しました。

中2の夏に、娘の体調悪化や睡眠障害は、発達障害による二次障害であることがわかりました。不登校の原因がわかり安堵すると同時に、「障害」とのことで困惑し再び不安になりました。すぐにセンターへ伺うと、先生は、私の複雑な胸の内を察し、親身になって話を聞いてくださいました。それから私は、娘のありのまま（特性）を受け入れ、常に寄り添い見守っていこうと前向きに考えることができるようになりました。

今春、娘は希望していた高校に合格することができました。サポートセンターの先生方に出会えたこと、親子ともども支えていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

（中3・T・K）



無駄にしないぞ 不登校経験

ぼくは、卒業式で皆と一緒に卒業証書を手にすることができました。最後に校歌を歌った時は涙がどっとでました。この涙は、ぼくにとって、その時までつまっていたいろいろなことがいっきにふきだした涙だと思います。

ぼくがサポートセンターを知ったのは、去年の秋に高津市民館で開かれた不登校相談会に行ってのことです。はじめのころは「勉強をしなくてはいけない」というあせりで通う気になりましたが、学校に登校しようとする時と同じで玄関で靴をはく時に体が動かない日がありました。でも努力することができ、休むこともなく通うことができました。それは、自分に合う勉強ができたからだと思います。

4月から高校に行き勉強と好きな音楽をがんばります。

（中3・Y・K）

学習が楽しくなりました

私は、いろいろなことから勉強ができる環境ではなかったこともあって、気がついた時は、授業の内容が全然わからなくなっていました。

中3になり、高校受験を真剣に考えなくてはならなくなると、不安でたまりませんでした。そんな時、市役所の人がサポートセンターを紹介してくれました。

私は、とくに苦手な理科と英語を習うことにしました。

先生方は、私が理解できるまで、ていねいに楽しく教えてくれました。勉強がわかるようになると勉強が楽しくなり、成績もあがってきました。

そして、無理かもと思っていた第一志望の高校に、無事に受かることができました。

春からは高校生、高校生活を楽しむと同時に勉強もがんばっていこうと思っています。

（中3・A・A）

初めの一歩は 勇気を持って!

子どもたちが何を考えているのか、つまづきはどこにあるのか、どうすれば成長を促すことができるのかを考え取り組んできた9年でした。

また、春がめぐってきて誰にとっても新たな出発の時です。子どもたちには、初めの一歩は勇気を持って、次からの歩みは確実に歩みを進めていってほしい。そして、勇気を出してよかったと子どもたちが実感できるようなサポートをしていきたいと思っています。。

（サポーター・N・S）

教育相談活動にあたって

ひとりひとりにきめ細かい対応を

サポートセンターでは、不登校や学習支援、特別支援学級（校）や問題行動等に関する相談を受け、学校復帰・学力向上や上級学校への進学や希望の実現に向けた支援活動を行っている。

昨年度の相談件数は62件で、最も多いのが不登校の児童生徒で相談件数の過半数を超えている。その次に多いのが学習の遅れなどの相談だ。障害を持っている児童生徒の相談も9件あった。さらに、他の相談機関から、親の虐待や反社会的問題行動をとる児童生徒についての対応を要請されるケースもあった。

校種別の件数は70％が中学校で、27％が小学校だった。学年別では、中学校の場合は、中1が9件、中2が14件、中3が18件と学年が上がるにつれて増加していく傾向にある。

相談に来る保護者の抱えている問題はとても深く、話をしていると、「わが子を何とかしたい」という親の必死の思いが伝わってくる。そんな思いを少しでも軽くしていきたいと思いながら、私たちは児童生徒にきめ細かい対応をしていきたいと思っている。

私が担当した不登校の生徒が高校を受験し、合格したときの嬉しそうな顔を思い出しながら、これからもがんばっていきたいと思っている。

（相談課長・木下敏美）

「こどもサポート南野川」

―創設期を経て―

開設後3年を経た今日、来所者が飛躍的に増加し、安定的に利用されるようになりました。また、不登校児童生徒の50％近くが学校に完全復帰するにいたりました。このことから、当所の経営が軌道に乗ったとみることができ、当所の「創設期」が完了したといえます。

これは、知名度が上がり、スタッフの熱心な教育活動が実を結んだとともに、一人一人の子どもがこれによく応えて登校力をつけてくれた結果であると考えます。

今後は、創設期の理念を継承しさらに充実させ、子どもたちを慈しみ育んでまいります。

大山街道ふるさと館

川崎市の指定管理団体として、川崎市生涯学習財団と連携しながら展示事業や文化事業・貸し館事業を展開しています。本年度も大山街道ゆかりの史跡や歴史・人々の生活から刻まれた足跡等を探求していく予定です。新たに昨年から、当館利用の団体の皆様に日頃の活動の成果を披露していただく企画も始めています。また、区内小中学生による「子ども大山街道探検クラブ」では、子どもたちの目で見る街道発見学習も実施しています。

不登校を経験した高校生たちの今

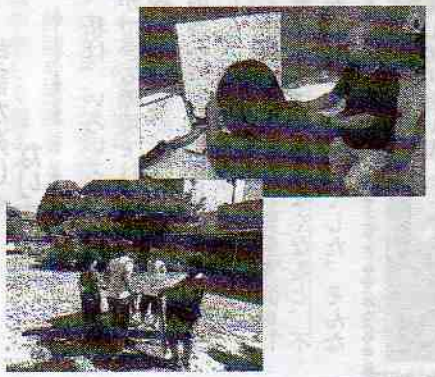
中学生の時期に、サポートセンターを学びの居場所にしていた高校生と会う機会がある。彼らに、その人なりに日々を前向きに生きている充実感がみられる。アルバイトをしている人、生徒会で活躍している人、職場実習をしている人等、様々である。

中学校時代の彼らに共通する負い目は「不全感」である。駄目な自分をいやというほど経験したのである。

この4月、在籍校で2年に進級した人たちの間に、「自分でも意外なほど年度末の成績がよかった。成績は、その学校の基準次第であり、これに満足せず、自分の目標に向け努力する必要を知った」といった話題で燃えた。

A子は、定時制に通う一方、当所での指導を求め通所している3年生である。「学習の困りはない。問題は人とかかわること」と本人も自覚している。A子には、社会自立にむけ、キャリア教育を含む指導プログラムが急がれる。

（研究課長　石原由美子）



＝さらなる発展を願って＝

多くの活動会員の皆様のあたたかいご協力とご支援をいただき「サポートセンター」の活動も9年めを迎えることができました。

学校に足が向かない不登校の子どもたちに、学習支援を中心に活動して、その事例研究も重ねてきました。その結果として平成24年度も文部科学省の「実践研究事業」の委託を受け、「問題行動への対応」をテーマとしました。昨年度は大震災の影響などで、研究発表会がストップしましたが、継続研究のため、3月3日に多くの参加者の中、盛大に研究報告会が執り行われました。報告書も各小中学校に配布したところです。

8年間、積み上げてきた経験と実績を、大切にしながら、相互の連携と協力により、子どもたちの健全で心豊かな成長を願って24年度も歩みます。

（事務局次長・對馬）

こどもサポート旭町

開設2年めの平成23年度は、登録者数の増加、こどもの生活力・登校力に大きな変容を見ることができました。

これは、本所の必要性・要求度の高まりと同時に、スタッフの創意ある教育福祉活動が実を結んだものと思います。

これら1・2年めのこどもの変容・成長の検証は、3年めの平成24年度、開所日拡大・週2日から週3日へという形で開花日を見ることになりました。充実した活動で日々、こどもを育んでまいります。

編集後記

◇東日本大震災から、一年たった現在も、復興はなかなか進んでいません。あれだけ多くのボランティアが、がれきの撤去や被災者のケアなど献身的にやってもらっていたのが、今や殆んど姿を見かけないと聞きます。改めて、救援の手を再び差し延べる必要を強く感じます。

◇平成24年度サポートセンターは設立9年めを迎えました。

「子たちに力を」をモットーに、多くの方々の協力のもとに、23の事業を運営し活動してきました。今年度から、幸区と連携して「幸区こども学習サポート事業」が始まります。これらの事業も24年度も精一杯、推進します。

（事務局次長　對馬）